

あいさつ

岡山実験動物研究会の再出発（最終版：2012年度）

三谷 恵一 *Keiichi Mittani, Litt.D.*

岡山実験動物研究会会長

特色ある岡山実験動物研究会

The *Okayama Association for Laboratory Animal Science* was established in 1982, and is maintained by the researchers and technicians who belong to universities, institutes, or companies mainly in Okayama prefecture of Japan and are engaged in Laboratory Animal Science. This association holds scientific meetings in Okayama twice a year, and publishes an annual journal.

The aims of this association are :

- to promote exchange of knowledge on Laboratory Animal Science among researchers and technicians the fields of medical, pharmaceutical, agricultural, and biological science :
- to promote friendship and collaboration among the researchers and technicians in Laboratory Animal Science :
- to contribute to the development of Laboratory Animal Science :
- and to promote ethical care and humane use of animals in research through recognition of scientific responsibilities. [by 国枝哲夫常務理事 岡山実験動物研究会 HP より]

岡山実験動物研究会とは1982年〔昭和57年〕に設立された研究会であり、実験動物科学に関わる多くの研究者、技術者により構成されています。本研究会の会則にありますように、本会は主として岡山県内において実験動物・動物実験に関心を持つ人々によって組織され、実験動物・動物実験についての知識の交流を図り、あわせてこれら領域の進展と実験動物福祉に寄与することを目的としています。これまでに毎年2回の研究会を岡山県内の各地で開催し、また、毎年1回の研究会報を発行しています。生命科学の研究において実験動物の重要性がますます高まる中、今後も、実験動物科学に関わる医学、薬学、理学、農学等の生命科学分野の研究者、技術者の交流を図っていく予定です。〔岡山実験動物研究会 HP より〕

研究会会長あいさつ

本研究会創立30周年記念の第64回大会が昨年11月30日（土）に岡山駅南のピュアリティーまきびで開催されました。

当研究会の“創立30周年”を祝して、研究会の歴史（佐藤先生）、実験動物としてラットの歴史と将来展望の礎となる研究の紹介（芹川先生）、科学と科学技術の倫理・リスク管理の提唱（唐木先生）という壮大なテーマによる講演が行われました。研究会後も活発な議論とともに懇親が図られました〔HP〕。

特別講演： 岡山実験動物研究会30年のあゆみ
佐藤勝紀（岡山大学農学部 本研究会名誉会員）

招待講演： 実験用ラット研究の進展
芹川忠夫（京都大学大学院医学研究科
附属動物実験施設 教授）

記念講演： 安全の科学とリスクコミュニケーション
唐木英明（倉敷芸術科学大学 学長）

◎ 組織運営に当たっては、「PM式リーダーシップ論」にのっとりた会員のリーダーシップ/フォロワーシップが大切です。

P(performance)機能とは、仕事・業績への配慮で左脳的です。M(maintenance)機能とは、人間関係・感情への配慮で右脳的です。PM式組織運営は、“二刀流”です。本研究会は、特別講演・招待講演・会員による研究発表(P)を中心とする会合を年2回開催しています。本研究会に参会することで、見聞を広め、懇親会を通して会員同士や企業関係者とお友達になれます(M)。人類と動物の幸福のために、日夜研究に勤しむ一人ひとりの麗しき自己実現(self actualization; PM)を目標とします。

1. (株)クラレ・くらしき研究センターの嶋村三智也理事の工夫により平成19(2007)年より、日英バイリンガルの念願のホームページ(HP)が立ち上がりました(P)。研究会場の光景や各発表者の姿も次々と登場します(PM)。
2. 研究会組織のページを開いて戴くと、賛助会員として全国20社近くが名を連ねていることが一

目瞭然となります。賛助会員様には、無料でA4広告掲載いただいています(PM)。

3. 毎年1回発行する『岡山実験動物研究会報』は、全国的評価は高く、第1号～28号までを積み重ねますと厚さ10センチ以上となり、バックナンバー製本2冊化も達成し、国会図書館にも導入されました。編集作業につきましては、佐藤勝紀元会長に御奉仕いただいています(P)。
4. 三谷恵一会長の尽力により「岡山実験動物研究会報」のバックナンバーのすべてを岡山大学学術成果リポジトリへ電子媒体化し、何号の何頁でも瞬時に世界のどこからでもダウンロード可能となり永久に保存されています(P)。
5. 昨年末の“第64回大会”のスナップと全員集合記念写真をHPにアップし、会員に郵送されました(Miby 嶋村理事、山下光治理事)。
6. 昨年12月末日、研究会長を3期6年務めました三谷恵一岡山大学ならびにIPU・環太平洋大学名誉教授、京都大学文学博士は退任し、名誉会員に推戴され、奈良の翠月庵へ帰りました(M)。
7. 次期会長は、岡山理科大学・理学部動物学科の織田統一教授がお引き受け下さいました。

おしらせ

賛助会員の広告を掲載いたしています。奮って広告を多数お寄せ下さい。東日本大震災の影響は、それぞれの会員にさまざまに影響していることでしょう。いかなる状況にあっても、人々と動物の幸福の道を勇気を出して歩まれますようお祈りいたします。

我が国は、昨年2011年3月11日2万人近い犠牲者を出した東日本大震災と福島原子力発電所事故に誘発された“第3の敗戦”を迎えました。初代：猪貴義会長に従い、生命科学(life science)に携わってきました私たちの責任と使命は誠に大きいものがあります。これを機会に、100名の会員数がますます多くなり、実り多い研究会へと更に発展させて参りましょう。

ちなみに三谷(2012)のまえがきによれば、1941年に始まった第2次大戦は1945年8月6日広島、8月9日長崎への原爆投下などにより310万人の日本の犠牲者を出しました。これが“第1の敗戦”です。

1990年ごろから、いくらスクールカウンセラーなどを増員しても、家庭を中心に成人の側からの児童虐待が右上がりに激増し、2010年度は宮城県・福島県・仙台を除いても55,125件を記録し、いじめ・殺人・自殺・1、100兆円の債務残高・イライラの底流が“第2の敗戦”です。原因は、文理多元的です。

賛助会員(研究会助成企業)(2012年6月現在)

乾商事株式会社 東大阪営業所
オリエンタル酵母工業株式会社 西日本バイオ営業部
片山化学工業株式会社 岡山営業所
株式会社アニマルケア
株式会社エイチ・エス・ピー

株式会社メディケアー

株式会社ラビトン研究所

一般財団法人阪大微生物病研究会 観音寺研究所

泉工医科工業株式会社

高塚ライフサイエンス株式会社

日本エスエルシー株式会社

日本クレア株式会社 大阪事業所大阪AD部

日本チャールズ・リバー株式会社 カスタマーサポートセンター(西日本)

有限会社アニテック 本社、第2営業部岡山支社

有限会社ジャパン・ラム

株式会社GSD

昭和セラミックス株式会社

◎三谷名誉会員の動物関係中心の電子論文と著書には次のものがあります。

電子化したもの：A群 【岡山実験動物研究会HP→出力可】

三谷恵一 1985 経験に基づく実験動物の行動変容 岡山実験動物研究会報 第3号 19-23

三谷恵一 1994 Change of Physiological and Psychological functions based on the combination of early and late experience. 岡山実験動物研究会報 第11号 16-23.

三谷恵一 2001 生態学的動的視野においては水平線分の誘目性は垂直線分の誘目性よりも高く、両パターンとも右視野中心で視覚走査される 岡山実験動物研究会報 第18号 33-39.

三谷恵一 2002 脳と知覚学習—環境心理学の再出発(1) 岡山実験動物研究会報 第20号 12-21.

三谷恵一 2003 脳と知覚学習—環境心理学の再出発 (2)—パターン認識における単一細胞レベルの研究と行動科学レベルの研究との対応と差異ならびに左半球 BROCA 領野の関与 岡山実験動物研究会報 第21号 10-18.

三谷恵一 2010a ゼブラフィッシュは生得的に「円」パターンを避け「倒立三角形パターン」を視覚的に求める 岡山実験動物研究会報 第26号 37-40.

電子化したもの：B群 【IPU環太平洋大学HP→図書館→リポジトリ→カラー出力可】

三谷恵一/志田久美子/山崎瞳 2008 家庭と学校の人間関係の新主観的障害単位(新SUD)に及ぼす“発話領域”の新漸進的弛緩法(新PR)の効果 環太平洋大学研究紀要 創刊号 37-51.

三谷恵一 2009 28項目新主観的障害単位:SUDs 環太平洋大学研究紀要 第2号 21-30.

三谷恵一 2010b “左手”とバーチャルブラッシングの角度による困難度の比較研究 環太平洋大学研究紀要 第3号 1-12.

三谷恵一 2011 「キャンドルのあかりと白熱灯間接照明をミックスさせた照明」が生理的にも心理的にも最も効果的である 環太平洋大学研究紀要 第4号 35-47.

著書

・医療と看護の心理学 *Psychology of Medical Science* ナカニシヤ出版 2007 337頁 24刷

・脳と知覚学習：環境心理学の再出発 2003 ブレーン出版 210頁

・因果行動発達学：発達心理学入門(第2版) おうふう 2009 118頁

・新しい認知行動療法と環境療法：脳-神経-筋肉-骨ネットワークの健康科学 2012 おうふう 420頁